



笠井耳鼻咽喉科クリニック  
自由が丘診療室院長  
(東京都)

笠井 創

## Q 原因不明の鼻水、鼻づまりの対処法は？

54歳、女性。ここ半年ほど、鼻水、鼻づまり、くしゃみといった鼻炎の症状が頻繁にあり、何かのアレルギーがあるかと思い、アレルギー検査を受けましたが該当なしでした。症状を抑える薬を処方されましたが、空気が乾燥している場所に行くと症状が悪化します。対処法を教えてください。(山梨県 E)

## A 原因不明の鼻過敏症「血管運動性鼻炎」。 治療には主に抗ヒスタミン薬や点鼻薬を使用する

鼻汁<sup>びじゅう</sup>、くしゃみ、鼻づまりをおこす代表的な病気がアレルギー性鼻炎です。鼻炎の診断は問診、鼻汁<sup>びじゅう</sup>中好酸球<sup>さんきゅう</sup>検査、スギ・ホコリ・ダニなどの抗原特異的IgE検査(RAST)、鼻誘発試験などを行います。原因抗原が特定できればアレルギー性鼻炎の確定診断となります。しかし検査結果すべてが陰性で、原因となる抗原物質をどれだけ調べても見つからない、つまりアレルギーはないと考えられないケースがあります。そのような原因不明の鼻過敏症を「本態性鼻炎」あるいは「血管運動性鼻炎」といいます。

血管運動性鼻炎の人は、季節の変

わり目や早朝、起床後に窓を開け外気を入れたとき、室内外を移動した直後などで急激な温度変化のあるときなどに、くしゃみとともに水様性鼻汁が出ます。中年以降の女性に多いのですが、男性でも60歳以上になると老人性鼻炎と呼ばれる血管運動性鼻炎と同じ症状がおきることがあります。とくに食事中に鼻水がたれてくると、症状がつかいだけでなく、人目にも気にしなくてはなりません。

血管運動性鼻炎は、自律神経のバランスが崩れ、交感神経系の働きが弱くなっておけると考えられています。症状が悪化する要因としては、精神的ストレス、甲状腺機能異常、

妊娠、ある種の血圧降下剤、鼻粘膜収縮用の点鼻薬の使いすぎ、香料やタバコの煙による刺激などがあげられます。

したがって血管運動性鼻炎の予防には、日常生活のなかからそれらの原因を排除することがもつとも大切です。血管運動性鼻炎の症状はアレルギー性鼻炎と変わりませんので、治療もほぼ同じように行われます。鼻水を抑えるためには抗ヒスタミン薬の内服薬や点鼻薬を使用します。鼻閉(鼻づまり)を伴う人にはステロイドの点鼻薬が効果的です。症状の激しいときには一時的にステロイドの内服薬が使われることもあります。